

# 生物から学ぶ企業経営研究会

代表: 検討中(7月初旬に決定予定)

## 1. 研究目的

昆虫をはじめとする生物から学んで現在の経営に生かす手法をリードする。

モノからコトの時代に即した研究会で企業経営の効率化を従来の資源、エネルギーの多用と、環境負荷や社会問題の発生を廃した経営を考える研究会である。以下に3つの目的を記す;

- ①AI/IoT など最新科学技術を全面的に活用して企業価値創出を目指す経営を支援。
- ②学会研究者のみならず、生物/生態学者とのコラボレーションを基に学会の活性化を志向。
- ③ますます重要となる「企業倫理」「SDGs 思考」「企業文化」を網羅した経営組織の構築に寄与。

## 2. 発足の背景・活動方針等

背景: Biomimicry が生物から学んだモノ造りとすれば、当研究会は生物から学ぶコト創りである。

- AI/IoT の技術には生物から学んだ技術が散見される。企業経営にも生物の個体や、生態系から学ぶ経営を考える時期がきたのではないだろうか。急速に普及してきた Edging Computing の発想は昆虫の神経脳に酷似している。
- 昆虫など生物の動きや繁殖には無駄なエネルギー、自然資源、過度な労力を使わずに効率的に目的を達成する術がコンパクトに内在している。これまでも人類は生物に模倣した道具や素材の開発に実績を上げてきた。一般的に Biomimicry と言われる Nature Technology である。
- Biomimicry が生物から学んだモノ造りとすれば、当研究会は生物から学ぶコト創りである。

### 想定されるメンバー

- 当初は発起人を中心にコアメンバーを決めた上で、学会内外から研究員を募る。
- 実務者や他領域の専門家を一般募集する。(実務家を始め興味を持つ Z 世代)
- Free Rider は固くお断り。

## 3. 活動計画

2022 年: ・学会内有志の勉強会(月1回程度)で、研究メンバーの充実、研究会の進め方、研究目標など詳細を検討。他領域の専門家(分子生物学者・昆虫学者)への声掛。  
・ユニークな研究会として社会に発信し、Cloud Fund や各種研究資金の提供を得る。

2023 年: ・学会研究発表大会で、広く社会に研究概要と成果を発表する。  
・海外の研究機関との Collaboration を開始する。  
・実際の企業経営に生かすべく、何社かの経営に参画する。(学会企業会員に誘致)

## 4. 研究会メンバー募集の考え方

- 企業経営者、実務者、生物関係研究者を中心とし、参加者には役割を明確に割り当てる。
- 参加における唯一の条件は、ご自身の研究の一環として取り組める方で、聴講生は不可。
- 新陳代謝できる仕組みを内在させ、若くて有能な方々を育て、活躍しやすい環境を整えて行く。

参加希望の方は、①氏名、②所属、③連絡先(メールアドレス、電話番号)、④取り組みたい研究テーマを記載し、環境経営学会事務局(smf@smf.gr.jp)までご連絡ください。